

豊富まちづくりシンポジウムが開催されました

【基調講演】

『交流施設の“だいじ”』

道立総合研究機構北方建築総合研究所
主査 松村 博文

- 高齢者の孤立死や児童虐待が増えています。お年寄りや母親の孤立が要因の一つと考えられます。
 - お互いが助け合い、人と人がつながる社会にしていかなければなりません。そのために地域コミュニティはとても重要です。
 - 交流施設を整備するには、人と人がつながるにはどうしたらよいかを検討することが大切です。
 - そのためには、
 - ①「住民ニーズは何か」を的確に把握すること。
 - ②施設の運営に住民が主体的に関わること。運営の担い手の育成を図ること。
 - ③子供はコミュニティ再生の最強のツール。うまく利用を。
- ◎事例
遊学館(釧路市)／わくわくエッグ(旭川市)／道立公園(中標津町)／千里ニュータウンひがしまち街角広場(大阪府)／美幌しゃきっとプラザ／地域食堂「きすな」(石狩市)／ふれあいサロン(紋別市)／あそぶっく(ニセコ町)

『豊富町に住み続けられるために』

北海道大学大学院工学研究院
教授 瀬戸口 剛

- 10年後には世帯の1割が単身高齢者世帯になります。75～80歳になると介護が必要になり、自分の家で生活できなくなります。一人ひとりが自宅に住むのではなく、集まって暮らす形態、そしてそれをサポートするサービスが必要です。
- 自分の家に住み続けるためには、生活支援サービスが大事です。サービスは、過剰なものでなく、食事、見守り、相談、何かあった時に病院につれていくといった程度で良いのです。
- 高齢者は住み替える場所として、①医療機関(診療所など)が身近にあること。②介護サービスが近くにあること③歩いて買い物に行け、交通の便の良い、自立して生活できる場所を、また住み替える住まいとして①みんなで集まれる②緊急通報システムがある③生活支援サービスを受けられる住まいを求めています。
- 定住支援センターでお年寄りのための機能を担うなら、街なかにあることが重要です。歩いて行ける、行きやすい、人と会いやすい、コミュニティができるような施設、お年寄りの生活をサポートするような施設づくりが大切です。



9月4日(土)町民センターにおいて、「豊富まちづくりシンポジウム」が開催されました。「住みたい住み続けたいまち」をテーマとして町で検討している「定住支援センター」(保健、福祉、多世代交流を目的とした複合施設)の整備に向け、まちづくりの専門家を迎えて、基調講演と住民ワークショップが予定されており、今回は第1回目となります。

【ワークショップ 第1回】

「あったらいいな こんな施設」をテーマに、ワークショップを開催しました。約30名の住民が4つの班に分かれて、「豊富でこんな活動ができればいい」、「こんなサービスがあったらいい」と思うものについて、意見を出し合いました。

■住民ワークショップ

【1班】(高齢者、勤労者の方など8名)

気軽に軽運動ができ、たくさん仲間ができるような運動施設を／冬にウォーキングができる場所を／冬に集える半屋外的な空間を／太極拳、ヨガ、ダンスができるような施設を／住民の作品を販売するワンボックスショップを／個人蔵書の図書館／時間的な制約がない施設／職場帰りにも利用できる図書館を／一人暮らしで落ち込んだ時のふれあい

【3班】(中学生、高校生の方など8名)

真直ぐ帰るだけでなく、友達と話したい／いろいろな人が運動できるスポーツジム／音楽バンドの練習や発表会ができる場所／自宅以外に勉強できる場所／DVD、CD鑑賞、中高生向けの本も／友達とゆっくり座って話せる場所／豊富町をPRできるところ／有名なアーティストの作品が鑑賞できる美術館

【2班】(子育て、勤労者の方など8名)

急な時に子どもを預けられる託児所／室内遊具が充実し、毎日通える児童センター／豊富の特産品を出すカフェ／物産展、朝市、フリーマーケット／お茶や簡単な食事ができるスペース／屋内で水遊びができる／高い難易度の遊戯施設／親子が遊べる空間／足湯(泉質をPR)／四季を感じる芝のある公園／アスレチック／100人くらいの人が集まりコンサートを／企業、学校の広報、不動産の情報提供 など

【4班】(勤労者、高校生の方など7名)

路線バスもスクールバスも停まるバス停を／学生が入りやすい、本が読めて、友達と話せる図書館／紙芝居や人形劇ができる／中高生バンドがライブをできるスペース／催し物が気楽にできるところ。引きこもりをなくす／開放的な施設／日祭日も使える店舗／情報発信を

■講評・総括(瀬戸口教授)

これからのコミュニティは「ゆるいコミュニティ」が重要になります。ゆるいコミュニティとは、誰かがいるかもしれないと、ふらっと立ち寄って使えるような施設です。ポイントは、学生さんが「図書館に行って友達と話せる場所が欲しい」と言っていたが、これからの図書館は、本を借りるだけではなく、友達と勉強しに行く場所、DVDを見にいくところ、一人できていた友達と偶然会ったりするところというのが求められます。次に大事なのは冬に集まる場所です。冬に行って簡単な運動ができる、ミニバレーとかダンスとかいろいろなことができることが大事です。このためには、どうやって運営するか、運営するときどう中身を考えるかが、実はもっと大事です。何がしたい、冬に集まってこんなことをしたいというのをもっと詰めていくと定住支援センターの使い道がもっとはっきりしてくるでしょう。



定住支援センター整備に関する皆様のご意見ご要望などをお聞かせください。
問い合わせ先▶
役場建設課土木係
☎0162-82-1001(内線152番)